をば大黒庵といふなればふくろ棚にぞ秘事をこめけり、

袋棚　利休形、桑の志野棚を、桐にて寫したる物也、

丸卓　桐は利休形、木地松木、溜は啐啄好み、

四方棚　角のあるは利休形、むかしは利休水指ともいひ、又半臺子ともいふ、角の丸きは江岑好也、

旅箪笥　利休形、一說に小田原陣中にて好まれし故に旅箪笥といふ、

三木町棚　江岑、紀州三木町滯留中、若黨の作なり、檜椹杉の寄セ木也、ツマミ竹、江岑傳來の棚は鴻池善右衞門所持、桐ハ原叟、ツマミ桑、

高麗卓　宗全好、一閑眞塗は好なし、高麗臺子を半分に切たる物なり、花塗は海部屋にてこのむ、

桑の小卓　仙叟床に用ゆる卓に好み、青磁ハカマゴシの香爐にフクベの細口の花入を取合す、

點茶棚に用ゆるは如心齋好也、

三重棚一閑、桐、桑、一閑張、宗全好、桐は原叟好、桑は如心好也、

〔南方錄三〕袋棚木地薄塗　長サ二尺五寸四分、柱大サ七分、糸メンアリ、　高サ疊摺ゟ上板ノ上ハマデ二尺○圖略、以下同、

袋棚紹鷗に初ル、此後置棚餘多出來すと雖、袋棚に過たる棚なし、加樣よろづ調て、臺子及第にもおとらぬ棚なり、○中略　袋棚の飾品々あり、臺子の心持を以て、いくつにも成る事なり、書院鏁の間、平坐敷にも用ゆ、四疊半には袋棚もりつけ也、木の目見ゆるやうにうす〳〵と塗たると、木地と兩やうあり、薄塗手前の時には心持あり、書院などに相應なり、

城樓棚○中略

天王寺や宗及の作也、それ故宗及棚とも申す、又は袋棚の半分にて半切棚とも云ふなり、所作は袋棚にて心得すむ也、○中略